タイ・マレーシア・香港における公開大学の現状

—海外調査の報告2011-12—

放送大学

タイ・マレーシア・香港における公開大学の現状

―海外調査の報告 2011-12―

放 送 大 学

はじめに

学長　岡部　洋一

国際化が進み、国と国との境界線が薄くなりつつある今、放送大学は日本を代表する生涯学習機関として、国際的に評価される公開大学を目指している。本学は、アジア地域の公開大学や教育研究機関を中心に国際的に活動する「Asian Association of Open Universities（AAOU)」（和訳：アジア公開大学連合）の創立当時からの会員であり、今年の 10 月には第 26 回 AAOU 年次大会が本学の主催で行われる。このことは本学が日本を代表する遠隔高等教育機関として、国際的な存在感を増していることを象徴するだろう。

放送大学のさらなる発展のために海外から学ぶ必要性を強く感じた石前学長によって、世界の公開大学の調査が開始され、2010 年 10 月には「イギリス・アメリカ・韓国における公開大学の現状」という海外調査報告書がまとめられた。海外調査は 2011 年以降も引き続き行われ、本報告書はその第二弾である。

今回の調査は、AAOU を通じて今後さらに繋がりが深まると予想される、アジアの公開大学に焦点を当てた。タイのスコータイ・タマティラット公開大学とは、国際交流協定を今年締結し、今後の活発な交流が期待されている。マレーシア公開大学の附属図書館は、2002 年の創設当初より電子図書館として機能しており、電子図書サービスを進めている本学附属図書館の大きな参考になるだろう。そして、香港公開大学においては、英国のオープン・ユニバーシティの教育システムに基づいたチューター制度や学習評価、またコース開発や教材作成に教員の他、プログラマーやデザイナー等の技術者が携わる点など、本学と異なる点から新しい仕組みに対する視野が広がることだろう。また、これら 3 大学とも、海外の学生を受け入れており、将来本学が海外展開をする際に参考とできるだろうと期待する。

目次

第 1 部　タイ・スコータイ・タマティラット公開大学
（Sukhothai Thammathirat Open University）

訪問先と訪問日程

1.　STOU の概要　2
2.　訪問の目的　4
3.　調査方法と調査内容　5
4.　調査結果　5
　A)STOU の教育の特徴　5
　B)授業の構成　5
　C)教材の種類　5
　D)教材の制作と配布　8
　E)図書館サービス　8
　F)留学生の受け入れと支援　12
　G)訓練プログラム　13

第 2 部　マレーシア公開大学図書館
（Open University Malaysia Tan Sri Dr Abdullah Sanusi Digital Library）

1.　調査目的　16
2.　調査方法　16
3.　調査結果　16
　A)マレーシア公開大学の概要　17
　　設立と理念　17
　　教育プログラムと学習支援体制　17
　B)マレーシア公開大学図書館の概要　20
　　電子図書館という特徴　20
　　図書サービス　23
4.　おわりに　24

第 3 部　香港公開大学（The Open University of Hong Kong）

1.　OUHK の概要　26
2.　チューター制度について　27
3.　コース教材について　28
4.　コース教材開発について　29
5.　学習評価について　34
6.　まとめ　34

資料　放送大学と各調査大学の一般事項比較表　37

第１部
スコータイ・タマティラット公開大学
(Sukhothai Thammathirat Open University)

調査報告書

調査・報告：放送大学　ICT 活用・遠隔教育センター教授　三輪眞木子

調査時期：2011 年 6 月 19 日～21 日

訪問先と訪問日程

2011 年 6 月 19 日～21 日の 3 日間にわたって、バンコック近郊のノンタブリ県にある STOU のメインキャンパスを、ICT 活用・遠隔教育センター教授　三輪眞木子が訪問した。

1.　STOU の概要

創　立：1978 年 9 月 5 日

学　長：Dr. Pratya Vesarach

学生数：

　　学　部：169, 798

　　大学院：　3, 186

教職員数：

　　教　員：380

　　支援者：2088

所在地：

　メインキャンパス：Bangpood, Pakkret Nonthamburi 11120

　地域センター（10 か所）

- Lampang, Mu 2 Lampang-Chiang Mai Highway, Pong Yang Khok, Hang Chat, Lampang 52190
- Sukhothai, 4 Mu 7 Sukhothai-Kamphaeng Phet Highway, Ban Kluai, Mueang, Sukhothai 64000
- Nakhon Sawan, 105/35 Mu 10 Nakhon Sawan-Phitsanulok Hwy, Wat Sai, Mueang, Nakhon Sawan 60000
- Udon Thani, Mu 10 Ban Kham Kling, Ban Chan, Mueang, Udon Thai 41000
- Ubon Ratchathani, 199 Mu 10 Liang Mueang Road, Jaeramae, ueang, Ubon Ratchathani 34000
- Nakhon Nayok, 196 Mu 5, Sika-ang, Ban Na, Nakhon Nayok 26110
- Phetchaburi, 90 Mu 9, Rai-som, Mueang, Phetchaburi 76000
- Chanthaburi, Mu 1 Chanthaburi-Sa Kaew Hwy, A. Makham, Chanthaburi 22150
- Nakhon Si Thammarat, 169 Nakhon Si Thammarat-Ron Phibul Hwy, Na San, Phra Phrom, Nakhon Si Thammarat 80001
- Yala, 116 Mu 4 Tha Sap-Lam Mai Hwy, Tha Sap, Mueang, Yala 95000

STOU は 1978 年から 1984 年の約 5 年間は独自のキャンパスを持たなかったため、タイ国際航空とチュラロンコン大学経済学部および総務部にて運営された。1984 年にバンコック近郊のノンタブリ県に現在のキャンパスが設置され、本格的な運営が開始された。

教育プログラム

STOU の各学部・研究科が認定している学位と資格を表 1 に示す。また、STOU が認定する博士学位を表 2 に示す。

表 1：学部・研究科が認定する学位と資格

学部・研究科	サーティフィケート(2 年)	学士	大学院ディプロマ	修士
School of Agriculture Extension and Cooperatives		○4 年･2 年		
School of Communication Arts		○4 年		
School of Economics		○4 年･2 年		
School of Educational Studies	○	○2 年	○	○
School of Health Science	○	○4 年･2 年		○
School of Home Economics		○4 年･2 年		
School of Human Ecology				
School of Law	○	○4 年･3 年		
School of Liberal Arts	○	○4 年･2 年		
School of Management Science		○4 年･2 年	○	○
School of Nursing		○2 年		○
School of Political Science		○4 年		○
School of Science and Technology		○2 年		

表 2：STOU が認定する博士学位

領域	学位名	専攻
Arts	Ph.D.	Social Studies Social Welfare Communication and Culture
Education	Ed.D.	
Commerce	Ph.D　D.B.A	Financial and Management Accounting Business Management Industry and Resource Economics Agricultural Economics Business Administration
Health Studies	D.P.A　D.Health.Sc.	Public Health Health Science
Science and Agriculture	Ph.D	Information Management Information Technology Library Science

組織

図 1：STOU の組織図

2. 訪問の目的

今回の STOU 訪問の主たる目的は、同大学の客員教授として、博士課程の学生の論文指導とを行うとともに、図書館情報学領域の教員を対象に講演することだったが、6 月 20 日の午前中に教育技術部門（Office of Educational Technology）と図書館（Office of Documentation and Information）を訪問して、教材開発と図書館サービスについて担当者と意見交換を行なうとともに、各施設を見学した。

3.　調査方法と調査内容

STOU の教育技術部門（Office of Educational Technology）を訪問し、担当者から、業務内容について聞き取り調査を行った。また、放送教材の制作スタジオを見学した。

STOU の図書館（Office of Documentation and Information）を訪問し、担当者から、図書館のサービス内容について聞き取り調査を行った。また、図書館の施設を見学した。

4.　調査結果

A)STOU の教育の特徴

STOU の全プログラムは、大学省（Ministry of University Affairs）の認証を受けており、一般大学から受容される学位と同等のものとみなされている。学生は職場に居ながらにして STOU の学位を取得でき、また、他大学に在籍中も STOU の学位プログラムに在籍できる。STOU の学生は、自分の都合に合わせて授業を選択して受講でき、自宅に郵送される印刷教材やメディア、図書館、地域センター、および対面のチュートリアルを含む多様な資源を組み合わせて学習できる。期末試験と追試験は、郵送・電話・インターネットを通じた申請により各州で受験できる。

STOU の教材は、有能な教授陣と専門職によって作成されており、学生が容易に入手し利用できる。教育プログラムには、高齢者や障がい者も参画でき、2010 年において 250 名以上の障がい者が在学している。60 歳以上の入学者の学費は割引料金が適用される。

STOU は、1978 年の設立以来、学習機会を求めるあらゆる人々が利用できる高品質の高等教育を開発してきた。そのため、学生は通常の教室に通わずに、どこに居ても自学自習で学習を進めることができる。学生は職場に居ながらにして、自分の学習を制御しつつ、多様な学習活動から好みのものを選択できる。自立学習は、印刷教材、ワークブック、音声、映像、補助的文献、ラジオ・テレビ授業、コンピュータ支援教育および e ラーニングを含む幅広いメディアから選択して自らのキャリアを向上させることができる。さらに、各州の地域センターでは、対面による授業やチュートリアルを受けることができる。

B)授業の構成

各授業の内容は、コースブロック（course blocks）と呼ばれる統合された関連教材群にまとめられている。STOU は 15 週からなる学期制で、学生は各学期に最低 1 コースブロック（6 単位）に参画する必要があり、学部学生は最大 3 コースブロックまで、大学院修士学生は 2 コースブロックまで参画できる。選択制の夏季コースでは、1 コースブロックを受講できる。

C)教材の種類

STOU で採用している２つの教授法である、「印刷教材アプローチ」と「コンピュータ・アプローチ」について、各々で用いる主なメディアと補助教材を、表３に示す。

表 3：STOU の教授法と教材

教授法	主なメディア	補助教材
印刷教材アプローチ	・　印刷教材 ・　コンパニオンブック ✧　学部：ワークブック ✧　大学院：研究ガイド	・ CD、DVD（ビデオ・オン・デマンド） ・ 放送授業（ラジオ・テレビ） ・ チュートリアル/セミナー（対面/衛星テレビ/ウェブキャスト） ・ e ラーニング教材 ・ マルチメディア CD ・ オンデマンド
コンピュータ・アプローチ	・ オンライン/CD によるレッスンモジュール ・ CD に収録した学習ガイド	・ オンデマンド A/V ・ e-ラーニング教材 ・ オンラインテレビ（ウェブキャスト） ・ オンライン・チュートリアル/セミナー・セッション

印刷教材

STOU の主たる教材は、伝統的には、学生に郵送される印刷教材のパッケージだが、技術の進歩に伴い、印刷アプローチのほかに、コンピュータ・アプローチも採用している。印刷教材は、自立学習用に設計されている。

ワークブック

学部学生用のワークブックは、新たに習得した内容の理解度と応用力のチェック機能を備えている。大学院生用学習ガイドは、目標、ガイドラインおよび推薦するコースを示しており、コースブロックの案内、受講計画、コース教材の要約、重要なニュース、学期活動の詳細、および関連文献リストを含むコースごとの幅広い情報を収録している。

マルチメディア CD

マルチメディア CD は、STOU のラジオ・テレビ教材、テキスト、画像のような補助教材を含んでいる。学生は、STOU のウェブサイトにある e ラーニングのページにログオンできる。この学習プラットフォームには、更なる学習のための教材や練習問題や自己テストが集積されている。e ラーニング資源は今のところ補助教材と見なされているが、修士プログラムでは e ラーニングがカリキュラムの重要な構成要素となりつつある。

放送授業

ラジオとテレビの放送は、STOU コースのユニークで価値ある構成要素である。各コースブロックでは、5 つのラジオ授業と 5 つのテレビ授業が提供されている。これらの放送授

業は、STOU の教育放送制作センター（Educational Broadcasting Production Center）で制作されている。

オンデマンドメディア

メディア・オン・デマンド（Media on demand）は、過去のラジオ授業とテレビ授業および STOU のウェブサイトに蓄積された補完的音声とビデオで構成されている。

Web キャスト

学生と一般の人々がアクセスできるウェブキャスト（Webcast）には、放送されたラジオ授業とテレビ授業のストリーミング版に加えて、衛星テレビによりウェブキャストで送信できる学生のためのチュートリアル・セッションが含まれている。

チュートリアル・セッション

STOU の遠隔学習システムの中核はメディアではないが、チュートリアル・セッション（Tutorial sessions）は、自学自習によるコースブロックにおいて個人的な対面による指導を受ける重要な機会を提供している。チュートリアル・セッションは、学生の自学自習の成果を拡張すべく、各州の地域センターで開設されている。対面によるチュートリアル・セッションが不可能な場合は、ウェブキャストや衛星テレビのリンクにより提供することもできる。これらのセッションは、講師が個々の学生に応じた補習を提供し、印刷教材や他のメディアの内容に関する学生の質問に回答する機会をもたらす。チュートリアル・セッションは、学期の初めに学生に送付されたスケジュールに従って、週末に実施される。これは学部学生には必修ではないが、各学生は 1 学期に 2〜3 回のチュートリアルセッションに参加しており、合計時間は 10〜15 時間である。たとえば収監者といった STOU 学生の特性に応じて、学生クラブ等でのチュートリアル・セッションも実施している。

e ラーニング教材

STOU の e ラーニングは、学部 3 コース、修士 33 コース、博士 10 コースで実施されている。 e ラーニングの各コースの学生数は最大 35 名で、1 回の対面によるセミナーを含んでいる。ただし、情報技術の修士課程（6 単位）は、全クラスをオンラインで実施している。コース管理には、オープンソースのソフトウェアである Atutor を利用している。このソフトウェアでは、テキストデータとフラッシュビデオを利用できる。オンラインでの意見交換はできるが、学生が宿題等のファイルをアップロードすることはできない。また、電子ポートフォリオとして D4L+P を導入している。

mラーニングでは、携帯電話により音声教材を提供している。

テレビ授業のストリーミング配信ではダウンロードもできるが解像度は低い。

ｅチュートリアルでは、1 日当たり平均 8 時間のヘルプデスクを開設しており、担当講師用に e-Learning Project Module を提供している。

D) 教材の制作と配布

印刷された主な教材（印刷教材とワークブック）は、各学期に学生に郵送される。印刷教材は大学の印刷局での印刷に先立ち最低 2 回は改訂される。これらの教材は、教育サービス部門（Office of Educational Service）から学生に郵送される。

E)図書館サービス

概要

STOU の図書館（Office of Documentation and Information）は、1979 年に教育技術部門（Office of Educational Technology）の一部として設立されたが、1986 年に独立した部門となった。1991 年以降、各地域センター内に支部図書館が開設され、1994 年には電子図書館システム VTLS と OPAC が導入された。現在では、10 か所の地域センター（STOU Regional Center）に支部図書館が開設されている。本部図書館は、学生や教職員が学習、教育、研究のために必要とする 20 万点以上の印刷版資料を所蔵しており、また、キャンパス外からインターネットを通して利用できるものを含む多様な電子資料を提供している。

図書館のサービス概要を、表 4 に示す。

表 4：図書館サービスの概要

	2006 年度	2010 年度
職員数	84 人	78 人
予算（人件費を除く）	17, 248, 200 baht	18, 257, 300 baht
資料購入予算	11, 923, 000 baht	11, 340, 400 baht
利用者数	158, 711 人	452, 258 人
蔵書規模（点数/冊数）	135, 452/166, 755	171, 137/282, 120
利用者満足度	80. 8%	80. 6%

本部図書館

STOU コーナー

サービスモデル

STOU の本部図書館、支部図書館、および STOU コーナーの役割分担を、表 5 に示す。

表 5：STOU 図書館のサービスモデル

図書館のレベル	本部図書館	支部図書館	STOU コーナー
位置づけ	サービス基盤	地域サービス拠点	地区の公共図書館
サービス対象	・ 支部図書館・地区公共図書館支援 ・ 来館者への直接サービス	支部図書館として地域来館者への直接サービス	刑務所および矯正施設を含む
サービス内容	・ 全サービスを提供 ・ 支部図書館の受入・整理業務を実施	受入・整理業務を除く全サービスを提供	STOU の学部レベルの印刷教材とメディア教材へのアクセス提供

他大学との連携

STOU 図書館は、ThaiLIS および PULINET の 2 つの大学図書館連携組織に加入している。ThaiLIS は、100 以上の公立大学図書館の連携組織で、24 の大学図書館との間で相互貸借契約を結び、ScienceDirect、Digital Dissertation 等の国際的な電子ジャーナルや電子資料を共同で導入するとともに、タイの学位論文と研究データベースを共有している。PLUNET では、20 以上の地域公立大学図書館との間で相互に貸出サービスを提供するとともに、電子書籍を共有し、資料の共同購入を実施している。

サービスの種類

図書館が提供するサービスの種類を、表 6 に示す。

表 6：主要サービスの種類

サービスの種類	サービス内容
受入・整理	受入、目録作成、分類
利用者サービス	学生、教職員、STOU メンバー外へのサービスを提供
利用者教育	学部生、修士学生、博士学生
特殊コレクション	ラマ 7 世資料、STOU アーカイブ、遠隔教育資料、ノンタブリ県の郷土資料

電子図書館サービス

STOU の電子図書館サービスでは、OPAC と総合目録のほか、以下のオンライン・データベースを提供している。

- ABI/INFORM Complete
- Academic Search Premier
- ACM Digital Library
- American Chemical Society Journal (ACS)
- CINAHL Plus with Full Text
- Computer & Applied Sciences Complete
- Dissertation Fulltext
- Education Research Complete
- EMERALD eJournal
- H.W. Wilson
- IEEE/IET Electronic Library (IEL)
- ISI Web of Science
- Journal Citation Reports
- Kluwer Arbitration : ฐานข้อมูลด้านอนุญาโตตุลาการ
- Matichon e-Library
- ProQuest Dissertations & Theses
- ScienceDirect
- SpringerLink eJournal
- Thai Digital Collection(TDC)

また、以下の電子書籍を提供している。

- Cambridge Books Online
- Digital Library Collections
- ebrary eBooks
- Emerald eBooks Series Collections
- F.A. DAVIS eBooks
- Gale Cengage Learning
- Grolier Online
- Hart Publishing eBooks
- NetLibrary eBooks
- SpringerLink eBooks
- ScienceDirect eBooks
- Thai eBooks
- World Scientific eBook

電子図書館サービスの一環として、オンラインによるバーチャル・レファレンスサービスとツイッター、フェイスブック等の双方向型サービスを実施している。電子図書館サービスのトップページを以下に示す。

図 2：STOU の電子図書館サービスのトップページ

図書館内の施設・設備

STOU 図書館のサービスは、対面、郵便、電話、ファックス、電子メール、ウェブフォームにより利用できる。

レファレンスサービスデスク

オンライン・レファレンスの書式

図書館内は全館ワイヤレスのインターネット・アクセスが可能で、デジタルーゾーンには利用者がインターネットにアクセスできるパソコンが配置されている。

デジタル・ゾーン

一般閲覧席

文献送付サービス

STOU の大学院生は、STOU 図書館および相互貸借で入手した雑誌論文や本の章、その他の文書類のコピーを郵送または電子メール添付で入手できる。

図書館利用教育

学部学生には、デモ、対面による個人指導、CD による個人向け指導パッケージにより、図書館利用教育が提供されている。大学院生には、デモ、対面による個人指導、CD による個人向け指導パッケージ、および情報リテラシー教育ワークショップにより、図書館利用教育が実施されている。

特殊コレクション

特殊コレクションとして、ラマ 7 世をはじめとするタイの王族関連資料を展示している King Prajadipok and Queen Rambhai Banni Documentation Center、STOU の歴史や過去の文書類を収集している STOU アーカイブ、遠隔教育に関する雑誌や図書や各種資料を収集する、ノンタブリ県の郷土資料を収集している Nonthaburi cultural and historical information がある。

F) 留学生の受け入れと支援

STOU の遠隔教育は現在はタイ語のみで提供されているので、STOU の留学生には、タイ語による高度な読解力と会話力が要求される。レポートやエッセイによる試験では、英語による回答を許容する教員もいる（教員との事前協議が必要）。STOU では、国際的なプログラムは実施していないが、「タイ研究」と「アセアン研究」の２領域について開設する

予定である。

海外に在住する学生は、事前に STOU の了解て海外受験の追加料金を支払えば、自国で試験を受けられる。外国での試験は、一般にタイ大使館と領事館で実施される。

G) 訓練プログラム

遠隔教育部門（the Office of Continuing Education）は、多様なテーマで訓練コースを毎月開催している。全ての訓練プログラムはタイ語で実施され、短いものは 1 日、長いものは 5 日間の集中コースである。

図書館情報学科・専攻の教授陣

第 2 部
マレーシア公開大学図書館
（Open University Malaysia
Tan Sri Dr Abdullah Sanusi Digital Library）

調査報告書

調査・報告：放送大学附属図書館長　松村　祥子　　図書情報課長　三浦　正克

調査時期：2011 年 9 月 26 日～30 日

1. 調査目的

放送大学附属図書館は数年前から電子図書館の構築を目指し、徐々に電子化を進めてきているところである。本調査では、電子図書館機能を中心とした図書館サービスを展開している海外の大学図書館を調査し、本学における今後の電子図書館サービスを円滑に進めるための知見を得ることをねらいとした。

本調査は、先に行った英国と韓国に続くものであり、放送大学学長裁量経費により 2011 年 9 月 26 日～30 日に、マレーシアの大学図書館（マラヤ大学、マレーシア公開大学、ワワサン大学）等を視察したものである。

なお、英国及び韓国の Open University 図書館調査（調査期間：2009 年 9 月 28 日～10 月 1 日の英国オープンユニバーシティ、同年 11 月 5 日～7 日の韓国放送通信大学）については、2010 年 3 月に報告書を刊行しているのであわせて参照して頂きたい。

2. 調査方法

今回の調査に先立ち、マレーシア公開大学（Open University Malaysia）のホームページ（OUM Prospectus 2011）により大学概要を把握し、この大学の図書館には電子図書館（Tan Sri Abdullah Sanusi Digital Library）という名称が付けられていることを知った。電子書籍、電子ジャーナル及び電子化された論文が多く所蔵さているということであるが、図書館がどのような体制で運営されているのかということや学生の反応などは記載されていなかった。また、マレーシア公開大学では教育プログラムが充実しており、学士、修士、博士の学位の他、複数の資格が取得できるし、海外に居住する学生もいるということであるが、実態はどのようになっているのだろうか。マレーシア公開大学における図書館をはじめとする教育サポート体制の現状と課題を明らかにすることは、今後の放送大学の教育支援体制にとって有意義であると考えて本調査を企画した。

マレーシア公開大学図書館の正面

調査にあたっては、放送大学附属図書館長松村祥子と図書情報課長三浦正克の 2 名がマレーシア公開大学を訪問し、図書館主任司書（Chief Librarian）Ruita Ramly 他の図書館関係者へのヒアリングと現地視察をおこなった。

3. 調査結果

本稿では、主としてマレーシア公開大学の概要と図書館サービスについて記述する。

A）マレーシア公開大学の概要

設立と理念

マレーシア公開大学は 2000 年に私立大学として創設された。設立にあたっては、国民の教育充実のためのマスタープランが作られ、多くの大学人、政治家、財界人からの厚い支持があった。特にマハディル(Mahathir Mohamad)首相のヒューマンキャピタ構想と結びついて実現したものであった。『Nurturing Excellence』（2008 年刊行）の中には、マレーシア公開大学への大きな期待がさまざまな立場からのメッセージとして綴られている。「子ども時代で教育が止まるとしたら、教育を受けないまま大人になった人は永遠に専門教育をうけるチャンスがないというのが、これまでのマレーシア人の考え方であったが、学校を中退したり、上級学校への進学の機会がなかった人が仕事をしながら勉強することができる環境を作ることが重要であること」や「政府は財源が十分でなくても、教育を推進することには疑問をもたず、教育政策を守るためには特別の配慮が必要であること。なぜなら国の将来は大きく学生に委ねられていること」等である。

教育プログラムと学習支援体制

2001 年に国立マラヤ大学のキャンパスの一角に校舎を新築し、入学者 753 名を迎えた。その後マレーシア公開大学は飛躍的な発展を遂げ、各方面から表彰されている。

表 1 に示すように、2011 年現在、5 つの学部と看護系学校及び大学院センターがある。又関連センターと研究所も多数あり、図書館、教材作成センター、学生マネジメントセンターは ISO の認証を取得している。2001 年から 2011 年までの 10 年間に累積学生は 753 名から 10 万 6621 名（学部生 10 万 1731 名、大学院生 4890 名）に増加した。同時期にプログラムは４から５９となり、学習センターは 2 から 52（地域センター45、海外センター７）になった。教職員は 87 名から 501 名に増え、チューター制も導入され累計 1 万 818 名、今学期は 2947 名が活動している。2011 年春学期の資格取得、学士号、修士号、博士号の種類は表 2 の通りである。全体として、教養学部というより社会人向けの職業に役立つことを目指す科目構成となっている。学生 2 万 8073 名の内、95%は国内に居住しており、内訳は資格取得 1728 名、学士 23557 名、修士 1227 名、博士 112 名である。海外学生 1449 名の居住地はモルディヴ、イエーメン、バーレーン、ガーナ、スリランカ、インドネシアなど多岐にわたっている。

多言語で対応するコールセンター

表１　学部・大学院・学習支援センター・研究所等

Ⅰ　学部／センター／スクール

・応用社会科学部（Faculty of Applied Social Sciences）
・ビジネス・経営学部（Faculty of Business and Management）
・教育・言語学部（Faculty of Education and Languages）
・情報技術・マルティメディアコミュニケーション学部
（Faculty of Information Technology and Multimedia Communication）
・科学・技術学部（Faculty of Science and Technology）
・看護・健康科学スクール（School of Nursing and Allied Health Sciences）
・大学院センター（Centre for Graduate Studies）

Ⅱ　学習支援センター

・教材作成センター（Centre for Instructional Design and Technology）
・学生マネジメントセンター（Centre for student Management）
・学習者サービスセンター（Learner Service Centre）
・教育・学習促進研究所（Institute for Teaching and Learning Advancement）
・職業発達研究所（Institute of Professional Development）
・質／研究／革新研究所（Institute of Quality, Research and Innovation）
・電子図書館（Tan Sri Dr Abdullah Sanusi Digital library）
・OUM 国際部（OUM International）

表２　学士、修士、博士の種類

A　資格(Diploma)	B　学士（Bachelor）
1. マネジメント（Management） 2. 人事マネジメント （Human Resource Management） 3. 情報技術（Information Tecnology） 4. 幼児教育（Early Childhood Education） 5. 入院前緊急ケア （Pre-Hospital Emergency Care）	1. マネジメント（Management） 2. 経営管理（Business Administration） 3. 人事マネジメント （Human Resource Management） 4. 会計（Accounting） 5. 経済学（Economics） 6. マーケティング（Marketing）

7. 情報技術（Information technology）
8. 情報技術とマネジメント
（Information Technology and Management）
9. マルティメディア コミュニケーション
（multimedia Communication）
10. ネットワークコンピュータの情報技術
（Information Technology in Network Computing）
11. ソフトウェア工学の情報技術
（Information technology with Software Engineering）
12. マルティメディア技術
（Multimedia Technology）
13. コンピュータ科学（Computer Science）
14. 教職（就学前教育）（Pre-School Education）
15. 教職（初等教育）（Primary Education）
16. 教育（教育管理）
（Education Administration）
17. 教育（TESL）（Education）
18. 英語研究習（English Studies）
19. 幼児教育（Early Childhood Education）
20. スポーツ科学（Sports Science）
21. 技術マネジメント
（Technology Management）
22. 製造マネジメント
（Manufacturing Management）
23. 労働健康・安全マネジメント
（Occupational Health and Safety Management）
24. 教育（数学）（Education-Mathematics）
25. イスラム研究（Islamic Magagement）
26. 心理学（Pychology）
27. コミュニケーション（Communication）
28. 政治学（Political Science）
29. 看護学（Nursing Science）

C 教育に関する卒後資格
（Postgraduate Diploma in Teaching）

D 修士（Masters）
1. マネジメント（Management）
2. ビジネスマネジメント
（Business Administration）
3. 科学（ビジネス 管理）
（Science-Business Administration）
4. 人事マネジメント
（Human Resource Management）
5. ソフトウェア工学（Software Engineering）
6. マルティメディア コミュニケーション
（Multimedia Communication）
7. 情報技術（Information Technology）
8. 情報科学
（Information Science-Competitive Intelligence）
9. 教育（Education）
10. 教育デザイン・技術
（Instructional Design and Technology）
11. 環境科学マネジメント
（Environmental Science Management）
12. 科学（Science）
13. 科学（工学）（Science-Engineering）
14. プロジェクトマネジメント
（Project Management）
15. 看護（Nursing）
16. イスラム研究（Islamic Studies）
17. ネットワークコンピュータの情報技術
（Information Technology in Network Computing）
18. 公共管理（Public Administration）
19. 英語研究（English Studies）

E 博士（Doctor of Philosophy）
1. 経営管理（Business Administration）
2. 情報技術（Information Technology）
3. 教育（Education）
4. 科学（Science）
5. 工学（Engineering）

すべての人のための大学（University for All）を謳うマレーシア公開大学には、多様な背景をもつ学生（教員、看護師、公務員、民間企業に所属する者、軍務につく者、家事従事者、障害のある者、退職者など）がいる。すでに 3 万人以上の卒業生が社会で活躍している。

マレーシア公開大学の教育システムの特色は、印刷教材と対面式で指導するチューター制とオンライン学習の三本柱がダイナミックに組み合わされているところにある。また、学習支援のための組織がきめこまかく学生のニーズに対応しているところも特筆に価するだろう。例えば学習支援システムとしてある MyVLE(Virtual Learning Environment)では、チューターや学生同士の議論がオンラインで実施されているし、学生マネジメントセンター（Centre for Student Management）では、入学から卒業時まで一貫して学生の就学上の支援をする仕組みが作られている。また、教材作成センター（Centre for Instructional Design and Technology）では、印刷教材とウェブベースの教材及びマルティメディア教材の開発と改善がおこなわれている。最新技術を駆使した効果的な教材を作る為に 70 名のスタッフ（教員、デザイナー、アニメータ等）が活動している。ここでは、iRadio, iTutorial,iLecture,iBook など学習ニーズにあった教材と補助教材が作られている。特に補助教材に関して合格率の低い科目を対象にして教材の改善に取り組んでいることやアニメーション・CG を使って分りやすい教材づくりをしていること等は放送大学が参考にしたいことである。

館内の教材作成部門（スタッフルーム）

教材収録作成するの為の簡易な音声スタジオ

B）マレーシア公開大学図書館の概要

電子図書館という特徴

2002 年に創設された図書館は Tan Sri Dr Abdullah Sanusi という当時の副学長の名前が付けられている。同時に Digital library（電子図書館）という名称も入っている。この図書館は教員や学生の教育・学習・研究を支援する重要な役割を担っている。広範な紙ベー

スの本・雑誌と共に充実した電子媒体の本・雑誌が配架されている。図書館のスタッフは10名で内8名は司書である。2005年にはMS ISOの認証を受けた。全国各地にある11ケ所の資料センター（各州に配置：The Resource Centres）と共に学生の学習支援をしている。尚、学習センター（Learning Centres）は国内に45ケ所、海外に7ケ所設置されているが、ここには教科書のみが置かれている。

蔵書としては紙媒体の本が3万1000冊で、中心は電子媒体の本・雑誌・論文である。32のオンラインデータベースは表3に示すように多くの電子本・電子雑誌・電子化された論文を含んでいる。表3から表6によって、どのような電子書籍がこの図書館にあるのかが分るだろう。

緑に囲まれた国際色豊かな図書館

表3　図書館　所蔵図書情報1

- >31,000 volumes of printed books
- 32 online databases
  - 7 e-Books databases (>115,402 titles)
  - 17 e-Journals databases (>29,000 titles)
  - 1 e-Thesis database (2.4 million titles)
  - 2 e-News databases
  - 1 e-Reference database
  - 1 e-Statutes database
- Audio/Video/CD-ROM

表4　図書館所蔵図書情報2　電子書籍

Multidiscipline	eBrary (>69,000 titles) Books24x7 (>19,000 titles) SpringerLink (>25,000 titles) InfoSci-Books (>1,000 titles) Infotrac
Nursing	Mosby's Nursing Consult FA Davis
Reference	Gale Virtual Reference Library

表５　図書館所蔵図書情報３　電子ジャーナル

Multidiscipline	SpringerLink (>2000 titles)
Education	ProQuest Education Journals (>600 titles) EdITLib ERIC OBHE (Observatory of Borderless Higher Education) (..) Journal of Commonwealth Literature Journal of Open and Distance Learning
Business, Economic, etc.	EbscoHost (>9000 titles) Emerald (>400 titles)
Nursing	Mosby's Nursing Consult CINAHL OVID
Humanities, Social Sciences	Ebsco Communication and Mass Media
IT, Computer Science	ACM Digital Library (>600 titles)

表６　図書館所蔵図書情報４　その他

E-Theses	ProQuest Dissertations (2.4 mil titles)
E-News	NSTP e-Media Meltwaters
E-Statutes	LawNet
Reference	Oxford Islamic Studies Online

マレーシアでは、長い間英語が公用語として使われてきた為に電子化された本や雑誌を英語で読めるという利点がある。近年では学校教育の第一言語がマレー語に変わったということであるが、もともと多民族国家でマレー語、中国語、英語などの他タミール語なども使われており共通語としての英語利用は続けられるであろう。

日本では、海外からの電子ジャーナルなどの入手コストが大変高いことが図書館の財政を圧迫しているが、マレーシアでは日本より有利な条件で利用できる条件もあり、それは国民のインターネット利用率の高さと共に電子図書館化の推進力になっている。

図書サービス

図書館の入り口にて（日本からの視察を表示する看板）

マレーシア公開大学図書館では、貸し出しサービス、案内・照会サービス、図書館同士の貸し出しサービス及び情報技術についてのワークショップなどが実施されている。学生や教職員の他、5000 人に及ぶチューターも対象になっている。電子図書館である為に、IT スキルを有しない者への研修・指導をおこなうことによって、図書館利用率を上げている。尚、チューターには 2 種類あり、対面指導と i Tutor の指導があるので、情報スキルの習得は学生にとっても教職員にとっても必須である。

電子図書館の利点としては、24 時間アクセス可能であること、どこからでもリモートアクセスができること、レファレンスサービスがしやすいこと、フルテキストへのアクセスが容易であること、ダウンロードが認められること、OPAC の統合がしやすいことなどが挙げられるので、公開大学に適合的であるとヒアリングでは強調された。

また、この図書館では、i-Repository として、論文、シンポジウムなどの記録、関連記事、パワーポイントのプレゼンテーション資料の他、試験問題のデータベースなども電子文書としてストックされている。

その他、図書館のサービスの一環として学生とのチャットを実施している。これは E メールを通して学生とのコンタクトを広げてきた従来の方法をさらに展開させようとする試みであるが、学生の需要は多く、アクセスする人が急増している状況である。

マレーシア公開大学図書館が本の貸し出しという業務を超えて、学びのコミュニティづくりの中核になっていることは、マレーシアの他大学の範として注目されている。このよ

うなインターネットによる学びのコミュニティにはオフ会もあり、遠隔大学での孤立しがちな学習者の新たな繋がりを形成している。

図書館の問題点としては、マレーシアにおいても電子化するための著作権や出版権が高いことがバリアになっているそうである。しかし、放送大学図書館で頻々問題になる図書館利用者からのクレームや妨害行為は殆どないということであった。

4. おわりに

遠隔地の自宅でいつでも学べる環境の一つとして、電子図書館が不可欠であることはマレーシア公開大学図書館の例からも明らかである。放送大学においても図書館の電子化が急務であると同時に、その利用を促進するための内外の条件整備（利用者のスキル・倫理の向上や電子化を巡る学内外の認識の改善）に早急に取り組まなければならないと思われる。

2009 年に調査した英国オープンユニバーシティ（UKOU）では、13 年の年月をかけて電子図書館への移行が図られた。マレーシア公開大学は 2002 年の設立時から電子図書館としてスタートしている。30 年近くの歴史を経てきた放送大学図書館は、電子図書館の扉を開けたばかりである。これまでの経緯と蓄積を壊さずに時代の変化にどう対応するのか。明るい未来を拓く的確な判断と努力が求められている。

教材作成センター（教材作成スタッフと）

第 3 部
香港公開大学
(The Open University of Hong Kong)

調査報告書

調査・報告：放送大学　ICT 活用・遠隔教育センター教授　青木久美子

調査時期：2012 年 2 月 21 日

1. OUHK の概要

香港公開大学（OUHK）は、1989 年 7 月に設立された。当時、香港はまだ英国領であり、大学数が少なく、大学教育に関して、供給が需要に追い付いていない状態であった。大学の進学率も当時は 10 パーセントにも満たなく（現在では、20 パーセント近くになっているという）、大学教育をもっと一般に広めるという目的と、社会人にも大学教育の機会を与えるという目的で、OUHK は設立された。入学資格は明記されているが、入学試験のようなものはなく、入学するか否かは入学志願者自身の判断に委ねられている。

芸術・科学・経営の 3 学部 8 コースで始まり、設立当初は、全てのコースが英語で提供されていた。教材は、豪州や英国で使用されていたものを入手し、内容を香港のコンテクストに改訂して使用したが、時が経つとともに、OUHK 独自の教材も開発するようになった。

後に、教員養成を専門とする教育学部が 1993 年に追加され、現在は、4 学部で、7 割のコースが英語、残りの 3 割が中国語で提供されている。コースが英語で提供される場合は、すべての教材が英語、また、コースが中国語で提供されるときは、全ての教材が中国語であるため、中国語のコースを提供し始めたころは、多くの教材を英語から中国語に翻訳しなければならなかったという。

学生数は 2000 年までは順調に伸びており、一番多い時で 26,000 名程の学生を有していたが、香港では、2000 年以降新しい大学が次々と設立され、現在は 14,000 名のパートタイムの学生を有している。学生の平均年齢は 33 歳である。設立当初は大学に行く機会を逃した社会人が主な対象であったが、現在では、高校を卒業したばかりのフルタイムの学生を対象に、通常の大学教育を対面でも行っており、それに対しては入学選抜を行っているという。（香港国内でのランキングではあまり高いほうではないが、香港では 8 つしかない公立大学の一つであるため学費が安く、人気が高いという。）しかしながら、同じ科目であれば遠隔も対面も関係なくコースの試験は同じであり、学費も同額で、学位に関しても、対面であるか遠隔であるかに関係なく、同等の学位を授与している。学生は様々なローンを得て学費を払っているケースが多いが、社会人の学生に対して雇用者が学費を負担する、というようなことは香港ではあまり見られないという。しかしながら、学位を取得した後は昇任されることが多く、社会人が学ぶことに対するインセンティブは高い。

香港において「遠隔教育」という言葉はあまりよい響きを持っておらず、また、人口密度の非常に高い香港では、遠隔教育の必要性も少ない。好きな時間に好きな場所で学べるという「フレキシブルな学習」に対するニーズは高まっている一方、どんなに綿密に計画された教材を使用した遠隔教育であっても、学生は往々にして対面の授業を好む傾向にある、という文化的背景もあるようだ。OUHK の通学生のフルタイムの学生に対しては、キャリアガイダンス等も行っており、通常の大学の機能を果たしている。

2.　チューター制度について

遠隔公開教育の学生には、印刷教材に関するチューターによる対面のチュートリアルが週に二回提供されている。また、学生には定期的に（10 単位のコースで年間 4～6 つほど）課題が課され、チューターが詳細なコメントを付与して学生に返す。香港公開大学の専任教員は 200 名ほどであるが、チューターは、7～800 名程おり、皆非常勤で、学校の教員や会社員がパートタイムで行っている。学生 30～35 名に対してチューターが一人つくという。例えば、学生が 300 名ほど履修しているコースでは、10 名ほどのチューターが同じコースの学生指導にあたり、この 10 名のチューターを選定し、研修し、モニターするのは専任教員の役目である。これは、英国のオープン・ユニバーシティのチューター制度をモデルとしたものであり、教員による講義ではなく、教材に関する質疑応答やディスカッションを中心とした教育システムとなっている。

過去には、電話によるチュートリアルもチューターによって行われていたが、最近ではネット上のディスカッションフォーラムにおいて質疑応答が行われるようになってきている。LMS（学習管理システム）に関して、以前は WebCT を使っていたが、現在では Lotus をカスタマイズした自前のバージョンのものが使われているという。400 余りの全てのコースがこの LMS 上にプレゼンスがある。いくつかのコースはオンライン上のみで存在し、主に海外居住の学生 200 名ほどがこういったオンラインのコースを受講しているという。

チューターを研修するための教材も開発されており、そのマニュアルは大変分厚く、遠隔教育について、課題のフィードバックについて、チュートリアルの実施について、オンラインディスカッションについて、等、OUHK のチューターとしての心構えや必

要事項が事細かに書かれている。このマニュアルは、現在トンプソン・リバーズ大学として存在するカナダの遠隔教育大学のものを参考にしたという。

新規に雇用されたチューターは、このマニュアルを受け取るのみならず、対面の研修プログラムも修了しなければならない。この研修プログラムは、チューター全員が参加する一般的なものと、学部が主催するコース別のものとがあり、また、e ラーニングを担当するチューターを対象に、オンラインプログラムに関する研修も行われる。オンライン研修プログラムに関しては評価が施され、このプログラムを合格しないチューターは雇用されないこともあるという。チューターのドロップアウト対策のため、チューターを雇用・研修するときは必要人員数の 2 割増の数のチューターを研修するという。チューターの研修の参加には少額の謝金が支払われる。チューター募集に関しては、新聞・ウェブサイト等で広く一般から公募するが、前述したように、志願者の中から選定を行うのは専任教員の役目である。

3. コース教材について

設立当初は印刷教材の郵送による通信教育が主な教育手段であったが、現在では、DVD のマルチメディア教材や e ラーニングも取り入れ、多彩な教材を提供している。週 4 時間の放送時間もあるが、それは講義のために使われるのではなく、大衆への PR のために使われているという。全てのコースが LMS に登録されており、オンライン上で PDF や HTML 版の教材提供を行っている。2 年ほど前に、印刷教材をすべてオンライン化しようと試みたが、学生の強い反対があり、今でも全てのコースで印刷教材とその電子版の両方を提供しているという。以前は、全ての学生に印刷教材を郵送で送っていたが、経費削減のため、最近では本部や学習センターで配布している。

OUHK の印刷教材

また、最近では、電子書籍のプロジェクトが立ち上がり、Kindle や iPad といった電子書籍のフォーマットでも教材の配布を始めている。このフォー

マットの利点は、文字情報と画像・音声情報が一つにまとめられ、学生がタブレット型の端末で気軽にアクセスできることにある。文字情報にはできるだけ音声が付けられ、文字で読むことも、音声で聞くこともできるようにしているという。また、外国語コースなどでは、ダウンロード可能な形で提供されており、学生が持ち運んで学習できるようになっている。ほとんどの教材で、教員自身が登場して講義をしたりするようなことはなく、音声はアナウンサーのような音声のプロに読み上げてもらうようにしているという。

4.　コース教材開発について

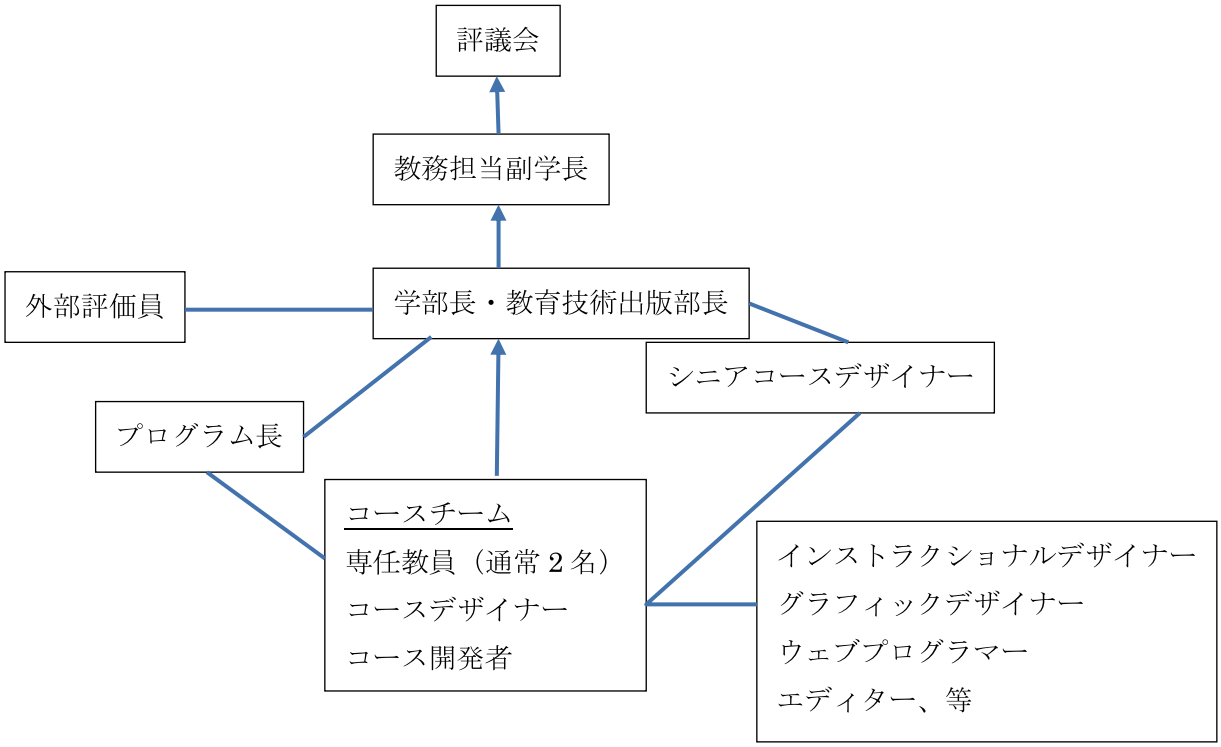
コースは通常コースチームで開発され、コースコーディネーターである専任教員が総括を行う。コースチームは、インストラクショナルデザイナーを含む数名でなり、印刷教材を執筆するのは、専任教員の場合もあるが、多くの場合外部の専門家に委託する。これは、教材の開発・作成にあたっては、大学の専任教員に頼むと割高になってしまうためであるという。何故かというと、専任教員が教材を執筆する場合でも、それは通常の業務外の任務とみなされる為、教材執筆のために通常業務の軽減を行わなければならず、その分誰か他の人にその業務をしてもらうための謝金を支払わなければならないため、専任教員に印刷教材を執筆させるほうが高くつくらしい。

専任教員が新しいコース（10 単位）を開発する場合には、（他の業務は全くなしで）少なくとも半年が費やされる。外部の教員に依頼する場合は、18 ヶ月かかる場合が多いという。複数の教員にコース開発を依頼し、開発時間を短縮することもある。また、英語で教材を作成する場合は、英語専門の編集者を雇う。

専任教員の通常義務としては単位あたりで計算され、一人当たり年間約 600 名の学生を担当する計算となるという。例えば、コースあたり 300 名ほどの学生を有するものであれば1年に2コース担当すればよいことになるし、100名ほどのコースであれば、年間 6 コース担当しなければならない、ということになる。学生数が多いコースは、チューター数も多くなり、コーディネーションの業務が増える。

新しくコースを開発するにあたっては、出来るだけ既存のものを活用するべく、まず、そのコースの内容について既存のものが他大学（特に、英国オープン・ユニバーシティや豪州の遠隔教育大学）にないかどうかを探す。もし存在すれば、そのライセンスを購入するか、それを開発した大学と交渉して、一部借用する、といったことをする。中国語で提供されるコースに関しては、既存の英語の教材を翻訳したり、ローカライズしたりして、開発する。印刷教材に関しては、内容的なテキストのみならず、ところどころに学習課題を課したり、ディスカッションのトピックを設けたりして、学生が主体的に学習できるような工夫がなされている。

Yuen 氏が長をしている教育技術出版部では、フルタイムのインストラクショナルデザイナーを 8 名ほど抱えており、コース開発にあたっている。また、インストラクショナルデザイナーのみならず、マルチメディア技術者、ウェブプログラマー、ビデオプロデューサー、グラフィックデザイナー、エディター等十数名がフルタイムで勤務しているという。この教育技術出版部では全てのコースの制作に関わっているため、ある意味で、OUHK の教材の質保証を行うのもこの部署であると考えられているようである。コース開発・制作に携わる関係者は以下のとおりである。



各コースチームでは、専任教員 2 名が構成員となるが、通常、一人は科目の内容専門家であり、もう一人はコースチームコーディネーター（CTC）として学部長から任命される。CTC は、打ち合わせの日程調整を行ったり、議事録の管理を行ったりするほか、学部長とのリエゾン的役割も果たす。教材の原稿執筆、外部教員との契約の詳細等の業務は学部長の承認で行われる。外部評価員は、学部の推薦を受けて、評議会によって任命され、開発されるコースが他大学の類似コースと同等のレベルの内容であるかどうか

をチェックする。コースチームが成功するか否かは、そのメンバー間で効果的なコミュニケーションが維持されていることにかかっていると認識されており、CTC はメンバー間のコミュニケーションを促進するよう努力をする。

コース開発のプロセスについて以下にステップごとに説明する。

① コース開発プロジェクトの選定
通常コース開設の 2 年前に、学部長と教育技術出版部長が新規コース開発の必要性を決定する。

② コースチームの結成
学部長と教育技術出版部長がプログラム長と相談して、CTC を任命し、開設する科目の専門家である教員と教育技術出版部から選出されるコースデザイナーからなるコースチームを結成する。コースチームは、教材を全て新規に作成するか、既存のものを修正・採択するかを決定する。既存の教材を細微の修正で採択する場合はコースチームで行うが、1 割以上の改訂が必要であるとみなされた場合には、新しくコース開発者の任命を要請する。教材を新規開発、又は改訂するかどうかを決定し、学部長と教育技術出版部長に報告し、学長補佐委員会に助成を申請する。

③ コース開発者の任命
新規コース開発申請の承認を受けて、学部長と CTC は、コース開発者を選定する。コース開発者が OUHK の専任教職員である場合、大学の規定に沿って業務が任命される。コース開発者が内部で見つからない場合、学部長は人事課を通じてポストの募集を行う。コース開発者が選定された後、詳細なコース設計計画、コースガイド、そしてプロトタイプの作成の契約をシニアコースデザイナーが準備する。

④ 詳細なコース設計計画の準備
コースチームは任命されたコース開発者と打ち合わせをし、詳細なコース設計計画の準備に取り掛かる。必要であれば、グラフィックデザイナーやウェブプログラマーといった教育技術出版部の人員もこのコース設計計画の打ち合わせに参加する。打ち合わせでは、コースの目標や内容、教授方法、教科書の選択、著作権処理、補助教材作成、開発スケジュール等について話し合う。この打ち合わせ後、コースチームはコース開発者とともに詳細なコース設計計画の作成に取り掛かる。コースデザイナーは、インストラクショナルデザインに関するアドバイスを提供し、教員はコースの内容に関するアドバイスを提供する。この段階で、コース開発者は、コースで使用されるすべての教材や教育資源を特定し、必要ならばそれらの著作権処理を行う。最終的には、コース開発者が詳細なコース設計計画を作成し、コースチームに提出する。

⑤　詳細なコース設計計画の承認

提出された詳細なコース設計計画が適切であるとコースチームが判断した後、コースデザイナーによって教務担当副学長、事務局長、図書館長、学部長、教育技術出版部長、および外部評価員に配布され、1～2 週間以内の対応が求められる。コメントは全てコースチームに転送されるが、外部評価員からのコメントのみは学部長を通して CTC に伝えられる。これらのコメントを受けて、コースチームは再び打ち合わせを行い、コース設計計画に必要な修正を行う。修正されたコース設計計画は CTC を通して学部長に提出され、学部長は教育技術出版部長と相談の上、承認する。コース設計計画が承認された後、CTC は、出版マネジャーに必要な書籍、ソフトウェア、その他の学習資源を要求し、必要であれば著作権処理に回し、その後エディターに引き継がれる。

⑥　コースガイドとプロトタイプの準備

詳細なコース設計計画が承認されると、コース開発者はコースチームとともにコースガイドとプロトタイプ（通常最初のモジュール）を作成する。コースデザイナーは、インストラクショナルデザインに関するアドバイスを提供し、教員はコースの内容に関するアドバイスを提供する。コースガイドとプロトタイプ作成に必要な著作権処理を行う。

⑦　コースガイドとプロトタイプの承認

コースガイドとプロトタイプの初校が適切であるとコースチームが判断した後、コースデザイナーによって学部長、教育技術出版部長、および外部評価員に配布される。コースガイドやプロトタイプに含まれるすべてのウェブサイトの URL はここで明確にされなくてはならず、1～2 週間以内の対応期限でコメントを収集する。これらのコメントを受けて、コースチームは再び打ち合わせを行い、コースガイドとプロトタイプに必要な修正を行う。もし、この段階でコースチームが合意に達せなかった場合は、学部長が仲介をする。CTC は、修正されたコースガイドとプロトタイプの承認を学部長に要求する。学部長の承認後、シニアコースデザイナーが、コース開発者に対しての謝金を支払う手続きを行う。（この段階で不適任のみなされたコース開発者は解任される。）学部長と教育技術出版部長が、コース開発者との契約をチェックして支払いの承認を行う。これを受けて、シニアコースデザイナーが残りの分のコース開発のための契約を準備し、そののち 3 回に分けてコース開発者に対して支払いが行われる。その内訳は以下の通りである。

第一回目支払い	総謝金の 35%	コース前半部分の教材とそれに対応する課題
第二回目支払い	総謝金の 40%	コースの残り部分の教材とそれに対応する課題、期末試験問題作成、その他の付随業務
第三回目支払い	総謝金の 10%	提出期限厳守された場合の残りの支払い

⑧　初回発送の承認

コース開発者とコースチームはコース設計計画に基づいてコース開発を進める。一つのモジュールが完成し次第、CTC は外部評価員にコメントを求める。コースチームは外部評価員のコメントを受けて必要ならば修正を行う。CTC は、このプロセスを繰り返し、コース全体の約 3 分の 1 を完成したところで最初の発送準備に取り掛かると同時に、学部長にこの旨を報告し、教務委員会の承認を得る。その後、教務担当副学長を経て、評議会の最終承認を受ける。評議会の承認を得て、この新規コースの学生募集を行う。評議会が否認した場合は、教務委員会に戻される。

⑨　次回からの発送の承認

CTC は、学部長、教育技術出版部長、外部評価員に、次回から発送する教材について報告する。外部評価員は、これを受けてコメントをし、学部長を通して、コースチームにフィードバックされる。コースチームは、外部評価員のコメントを受けて打ち合わせを行い、コース開発者とともに、必要な修正等を話し合う。コースチームの決定は CTC を通して外部評価員に伝えられる。毎回の発送において、CTC は、外部評価員のコメントを添えた報告書を学部長に提出する。すべての問題点が指摘された後、学部長は教材を承認し、教務委員会に報告する。この段階で解決されていない問題点がある場合は、評議会の審議事項となる。コース前半のモジュールが完成されたところで、コース開発者に支払いが行われる。

⑩　最終発送の承認とコースの最終承認

コース全ての教材が完成したところで、CTC は、学部長、教育技術出版部長、外部評価員に報告する。外部評価員は最終報告書を作成し、コースチームは、自ら作成した最終報告書とともに、学部長に提出する。学部長は、この報告書を教務委員会に提出し、承認を得たのち、教務担当副学長を経て、評議会に承認を得る。評議会は審議ののち、承認をするか、否認して教務委員会に差し戻す。コース全ての教材が完成し、学部長と教育技術出版部長が承認した時点で、コース開発者に最終支払が行われる。この最終支払は、コース全ての教材が期限内に完成した場合のみ支払われる。

⑪　コースの編集・制作・配送

コースチームにより承認を得た教材は、教育技術出版部のエディターが編集を行い、スタイルを統一する。コースチームとエディターは、コース教材制作に関して定期的にコミュニケーションを図り、必要であれば、グラフィックアーティストやウェブプログラマーに依頼をする。編集中は、エディターは、コースデザイナーを介してコースチームと必要な修正があれば話し合う。コースの教材が最終稿に入った段階で、エディターは CTC、学部長、教育技術出版部長の承認を得る。コースデザイナーやシニアコースデザイナーも必要に応じて相談に乗る。出版マネジャーが、最終的に教材が印刷され配布さ

れたことを確認する。前記①からこの⑪までに達する期間は通常 18 か月である。一旦開発されたコースは通常 3 年間開講するという。

5. 学習評価について

フルタイムの通学制学生も、パートタイムの遠隔の学生も、同じコースを受講していれば期末試験は同じであり、期末試験に関しては、試験のレベル・内容が、他の大学と同格のものであるかどうか外部評価委員と相談して作成される。また、期末試験の評価方法に関しても、外部評価員が適切であるかどうかをチェックする。

期末試験問題はコースチームの専任教員とコース開発者が通常作成にあたり、その大多数はエッセイ方式の質問項目からなり、択一式問題はほとんどない。試験の実施は全て対面で行われ、監督なしで遠隔で行われることはないという。国外に居住する学生の場合は、近隣の大学によって行われ、その場合は事前に試験問題が試験会場に送付され、できるだけ香港国内の試験日時と合わせて実施される。

CTC は、学生からの回答をコース担当のチューターにランダムにアサインし、チューターはどの学生の採点を行っているのか知らずにできるだけ公平に採点を行う。採点に関しては、チューターの通常業務外のタスクであるため、採点分の謝金をチューターに支払う。試験の採点に関してはコメントを付与しなくてもよいため、課題の採点よりも謝金額は少ないという。採点に関してどのチューターがいくつの課題・試験を採点し、謝金をいくら払わなければいけないのか、といった管理は CTC が行う。チューター側からすれば、採点一件いくらの謝金なので、課題提出者、又は、受験者が多ければ多いほど謝金額は増える。

学生のコース全体の成績評価については、試験の点数のみならず、定期的な課題提出による継続評価も行われ、その比率は半々である場合が多い。どんなに試験の点数がよくても課題をきちんと提出していなければ合格しないし、課題提出をきちんと行っていても、試験の点数が極度に悪ければ合格しないのである。学生は、どちらか（課題か試験）の成績が不合格であった場合、不合格であった部分を再提出（再試験）することができる。

6. まとめ

OUHK では、基本的に英国のオープン・ユニバーシティの教育システムのモデルに従って、教育が行われているようである。特に、チューター制度、そして、継続評価と総括評価の両方により学生の成績が評価されるところが、特記に値する。課題提出による継続評価は、教育的配慮においては大変望ましいものである。しかしながら、英国オープン・ユニバーシティや、OUHK のように、チューター制度がしっかり整備されていてこそ実施できるものでもある。

OUHK でもう一つ特記すべきことは、その徹底的なワークフローに基づいた教材

作成による質保証のシステムである。教材作成に関してチェックポイントがいくつかあり、複数の段階を経て教材が承認されるところ、また、すべてのコースに関して外部評価員が設計計画の段階でコメントをし、それが実際にコース開発に生かされるようにデザインされているシステムが素晴らしいと感じた。また、コース開発にあたって、教員のみならず、インストラクショナルデザイナーやグラフィックデザイナーといった専門家もコースチームの一員となり、ともに教材を開発していく過程がシステムとして出来上がっているところがよい。

我が放送大学に比べると規模の小さな公開大学であるが、教材技術出版部という教材作成の専門部署があり、プロフェッショナルとして教材作成に関与しているところが印象深かった。

Dr. Kin-sun Yuen（OUHK 教育技術出版部長）と報告者

資料：放送大学と各調査大学の一般事項比較表

国名	日本	タイ	マレーシア	中国（香港）
大学名 （英語名）	放送大学 The Open University of Japan	スコータイ・ タマティラット公開大学 Sukhothai Thammathirat Open University	マレーシア公開大学 Open University Malaysia	香港公開大学 The Open University of Hong Kong
設立年	1983	1978	2000	1989
学生数	86, 319 （2011 年）	172, 984 （2011 年）	28, 073 （2011 年）	*11, 856 （2011/12 年）
教職員数 （非正規含む）	3, 365 （2011 年）	2, 468 （2011 年）	3, 448 （2011 年）	1, 957 （2010/11 年）
キャンパス	本部 1 カ所	本部 1 カ所	本部 1 カ所	本部 1 カ所 地域キャンパス 3 カ所
学習センター	学習センター50 サテライトスペース 7	地域センター10	地域センター45 海外センター7	学習センター3
面接授業	各学習センターで教員が実施する	各州の地域センターでチューターが実施する	地域センターでチューターが実施する	地域センター等でチューターが実施する
授業利用メディア	TV、ラジオ、インターネット、CD-ROM、DVD 等	テレビ、ラジオ、マルチメディア CD、オンデマンドメディア、Web キャスト等	マルチメディア、インターネット等	DVD、インターネット等
学生サポート施設	学習センター、学習サポートセンター、インターネット等	地域センター、インターネット等	学生マネージメントセンター、図書館、資料センター、インターネット等	学習センター、インターネット等
学生サポート員	教職員	教職員、チューター	教職員、チューター	教職員、チューター
図書館の蔵書	本部図書館約 32 万冊 学習センター約 42 万冊	紙媒体約 28 万冊	紙媒体約 3 万冊 32 オンラインデータベース	紙媒体約 15 万冊 電子図書約 5 万冊
備考			5%の学生は海外在住	遠隔学生以外に通学生も多く受け入れている。 *通学生を除く

編集・著作　放送大学
総合戦略企画室
国際連携係
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
Tel:043-276-5111
Fax:043-297-2781
URL:http://www.ouj.ac.jp/
報告書発行　2012年5月